

新しい世代が平和を発信する

原爆投下から69年を迎え、被爆者の生の声を聴く機会が徐々に減っています。こうした中、核兵器廃絶や平和の尊さの発信について、大学生や被爆2世、3世など、被爆者の次の世代の人たちによる新しい取り組みが芽生え始めています。今回紹介する取り組みをもとに、平和の実現に向けて皆さんができることを考えてもらえればと思います。

問い合わせ

平和推進課

☎ 8 4 4 ・ 9 9 2 3

被爆継承課

☎ 8 4 4 ・ 3 9 1 3



若い世代が世界へ発信

長崎の大学生による「ナガサキ・ユース代表团」が、ニューヨークで被爆の実相や核兵器廃絶への思いを世界へ訴えました。また、長崎の中学生が世界各国の青少年と言葉や文化の違いを超えて長崎から平和をアピールする「世界こども平和会議」が新たに開催されます。しなやかな発想で世界へ発信する若者たちは、長崎の希望です！

大学生のチャレンジ「ナガサキ・ユース代表团」



- ①「ナガサキ・ユース代表团」メンバー
- ②海外のNGOなどが主催したイベントでのスピーチ
- ③国連日本政府代表部が主催した交流会での各国の外交官との意見交換
- ④ニューヨーク育英学園での小学生への平和授業

長崎の若者代表として

今年4月にニューヨークで開催された核軍縮などに関する国際会議である核不拡散条約(NPT)再検討会議第3回準備委員会に、長崎の若者代表として「ナガサキ・ユース代表团」の8名の大学生が参加しました。

「ナガサキ・ユース代表团」は、公募で選ばれた大学生などの若者が、核兵器廃絶に関する最新の国際情勢を学びながら、知識を行動に結び付ける力を養うことを目的として、昨年度から派遣されています。

世界の動きを肌で感じる

代表団のメンバーは、ニューヨークで各国の代表者やNGOの人たちと意見交換を行ったほか、自分たちで企画して日本人学校の小学生へ平和授業を行うなど、長崎における被爆の実相や核兵器廃絶への思いを訴えました。

帰国してからも、教育や保健などそれぞれの専門分野で核兵器廃絶と関連させて学習を進めたり、長崎大学核兵器廃絶研究

センター(RECNA・レクナ)の「レクナサポーター」として核兵器廃絶に関するイベントを企画するなど、それぞれの形で新たな歩みを踏み出しています。

幅広い視野を持って核兵器廃絶を考える

これまで、長崎では小中学校での平和学習や高校生一万人署名などの活動が行われてきましたが、その上の世代の平和に対する取り組みが課題となっていました。

そこで、2年前に、「ナガサキ・ユース代表团」や「レクナサポーター」など、大学生が活動できる場が生まれてきました。

彼らは、核保有国や非核保有国などのそれぞれ異なる主張を調べながら、「核兵器をなぜなくす必要があるのか」「核兵器をどのようにしたらなくせるのか」について、自分たちなりに考えを深めようとしています。

大学生たちによるこれからの活動に期待したいですね。

【問い合わせ】

平和推進課(☎844・9923)

特集

市政

長崎市民

プレゼン

生活情報

健康

子育て

福祉

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

中学生が各国の青少年と交流 世界子ども平和会議



辞書を片手に英語での発表を作成中



会議の進行について確認



参加国の国旗を描いています

来夏の夏に、市内の小中学生と世界各国のボイススカウトや留学生などの青少年が集まり、被爆の実相や平和の尊さを学ぶとともに、言葉や文化の違いを超えて語り合い、平和をアピールする場として、「世界子ども平和会議」の開催を予定しています。その開催に向けて今年8月9日（土）に約10カ国の中高生を招いてプレ大会を開催する予定です。

この企画・運営を担当する中学校では、プレ大会に向けて、生徒たち自身が、英語で発表する内容を考えたり、会議の進め方について話し合ったり、各国を歓迎するために参加国の国旗を描いたりしていました。内野奈緒さん（3年）は、「いろんな国の人たちと英語を使って交流するのが楽しみ。戦争はしてはいけないということ伝えたい」と、意気込みを語ってくれました。

中学生の皆さんが今回の交流でどのように成長するのか楽しみですね。

【問い合わせ】

被爆継承課（☎844・3913）

子どもたちに平和を伝えたい

もともと平和教育に関心があり、核兵器廃絶や平和に関する国際会議の議論を間近で見たいと思い、ナガサキ・ユース代表団に応募しました。

ニューヨークでは、小学5・6年生の子どもたちに平和授業を行い「平和を実現するための方法」について考えてもらいました。また、ドイツからの学生や海外のNGOの人たちとも交流しました。核兵器廃絶という同じ目的で若者たちが集まっていることが心強かったです。

今回の経験を生かし、レクナサポーターの仲間とともに核や国際問題を考えるイベントを開催したり、平和教育の学びを深めるなど、自分なりにできることに取り組んでいきたいです。



あらさき
新崎 さくら さん
（長大教育学部2年）

代表団メンバーの声

平和に関心がなかった人こそ参加してほしい

以前は核兵器や平和についてあまり考えたことがなかったのですが、「外国」に興味があり、昨年に引き続き今年も参加しました。ニューヨークでは、核兵器廃絶に向けた世界の都市の集まりである「平和首長会議」が主催したイベントに参加し、若者たちによる核兵器廃絶に向けた取り組みなどについて話をしました。

今回の訪問で、各国の政府やNGOなどとのつながりがどんどん広がり、貴重な経験となりました。

特に、これまで平和のことを全然考えていなかった人こそ大きな刺激を受けるので、機会があれば、ぜひユース代表団にチャレンジしてほしいと思います。



ゆの
橋口 優乃 さん
（長大経済学部3年）

家族の被爆体験を語り継ぐ

被爆者の記憶や思いを受け継いで次の世代へ伝えようとする被爆2世・3世などのかたを、「家族証言者」として支援します。

被爆者の思いを 風化させないために

被爆者の高齢化が進む中、被爆体験をどのようにして将来へと引き継ぐかが大きな課題となっています。こうした中、これまで、被爆者と共に寄り添い、生活してきた被爆2世・3世などの方々の役割がこれまで以上に重要になってきています。

市では、家族の方々が被爆者の記憶や思いを受け継ぎ、家族証言者として次の世代へと伝えることを支援する取り組みを始めました。**被爆者への証言の聞き取り、記録・保存**や**家族証言者として講話される際に必要な原稿や写真などの資料の作成**を行うほか、**話し方の研修や講話の実習**など、それぞれの実情に応じて必要な支援を行っています。

被爆2世・3世の方々は、被爆者から聞いた話に加え、被爆者のその後の姿についても自分の体験として語ることができます。被爆者の思いを次世代へと引き継ぐために、あなたもご家族の被爆体験を語ってみませんか。

【問い合わせ】

被爆継承課 (☎844・3913)

特集

市政

長崎市民

プレゼント

生活情報

健康

子育て

福祉

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

広島と長崎で二重被爆した故・山口彌さんの長女・山崎年子さんと孫・原田小鈴さんは、被爆者の家族として山口さんの被爆体験を語り継ぐ活動を行っています。被爆2世・3世としての思いなどについて伺いました。

Q：被爆体験をどのように伝えたいですか？

(山崎さん) これまで、長崎大学の平和講座で、年に1回、父の体験を話してきました。証言については、話し方などを工夫し、うまく伝えようとする考えはありません。父が体験してきた真実を伝えたいと心がけています。真実を伝えれば、きっと相手に伝わる

と思っています。
(原田さん) 被爆者の故・松添博さんと末永浩さんによっていただいた祖父の体験の紙芝居を使って話をしています。被爆者の皆さんの思いがこもったものとして大切に話しています。

Q：ほかの2世・3世などのかたが証言することについてアドバイスをお願いします。

(山崎さん) 実は、実際に被爆を体験したわけでもないのに2世として証言することについて、今でも自分の中で毎年葛藤があります。ただ、被爆者と若い世代のパイプ役として橋渡しをしたいと考えています。まずは1回だけでも経験してみ、その後に継続するかしないかは人それぞれで考えればよいと思います。

(原田さん) きっかけがあれば証言も含めていろんなやり方で平和をつないでいくことができると思います。一人ではなかなか難しいので、家族や周りの人たちの支えが大切だと思います。



原田 小鈴 さん(左)・山崎 年子 さん



7月5日に開催された家族の被爆体験に関する座談会で山口さんの被爆体験について講話する山崎さん(左)と原田さん

一步踏み出してみませんか？

特集

市政

長崎市民

「ご意見」
プレゼント

生活情報

健康

子育て

福祉

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

これまで紹介した「ナガサキ・ユース代表団」や「世界子ども平和会議」、「家族証言者」といった取り組みのほかにも、「青少年ピースボランティア」や「レクナサポーター」、「被爆体験を語り継ぐ永遠の会（下記参照）」など、被爆体験のない新しい世代が、さまざまな形で平和の大切さを伝える活動に取り組んでいます。

被爆都市である長崎では、被爆者や市民の皆さんとともに、核兵器の脅威や平和の尊さについて長年継承に取り組んできました。こうした取り組みにより、特に近年、長崎の人々にとって、平和について考えたり行動したりすることは、特別なことではなく、より身近なものへと変わりつつあります。

核兵器廃絶と平和の実現のためには、平和の大切さについての発信を継続することが必要です。新しい世代が長崎から平和の発信を続け、国内外のさらに多くの人に共感を広げることができたら、核兵器のない世界の実現への希望が広がります。

あなたも、自分なりのやり方で、平和の発信について一步踏み出してみませんか？



「青少年ピースボランティア」は、15歳以上30歳未満の学生や社会人で構成され、全国から来た学生たちと被爆の実相や平和の尊さについて学ぶ「青少年ピースフォーラム」の企画・運営などを行っています。

【問い合わせ】
被爆継承課 (☎ 844-3913)



核問題に関心を持つ学生や社会人などが集う「レクナサポーター」。8月10日(日)にドイツと東京の学生を招いて、会議形式で核兵器や国際問題について考えるイベントの開催に向けて活動しています。

【問い合わせ】
長崎大学核兵器廃絶研究センター
(レクナ) (☎ 819-2164)



国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の被爆体験記朗読ボランティア「被爆体験を語り継ぐ永遠の会」では、祈念館に収蔵されている被爆体験記を朗読する定期朗読会を開催しています。

【問い合わせ】
国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
(☎ 814-0055)